

阿蘇中岳火口見学再開までの経緯

阿蘇中岳火口は平成 25 年までは年間 100 万人が訪れる九州を代表する観光地で、特に海外の方に人気が高いためインバウンド受入れに大変期待が寄せられていた観光地でした。ところが平成 26 年 8 月 30 日火山活動の活発化で噴火警戒レベルが 2 に上がり、概ね 1 k m 以内立入禁止となり、その後の経過は下表のとおりです。

平成 26 年 8 月 30 日	気象庁が噴火警戒レベル 1 を 2 に引き上げ
平成 26 年 11 月 25 日	小規模噴火
平成 27 年 9 月 14 日	噴火警戒レベル 3 に引き上げ（火砕サージ発生。火口から 3 k m 以内立入禁止）
平成 27 年 11 月 24 日	噴火警戒レベル 3 から 2 に引き下げ
平成 28 年 10 月 8 日	マグマ水蒸気噴火発生（発生時刻 01：46）。噴火警戒レベル 2 から 3 に引き上げ
平成 28 年 12 月 20 日	噴火警戒レベル 3 から 2 に引き下げ
平成 29 年 2 月 7 日	噴火警戒レベル 2 から 1 に引き下げ。復旧作業のため火口から 1 k m 以内立入禁止の自主規制に入る
平成 30 年 2 月 28 日	自主規制解除

小規模噴火含め数回噴火があったわけですが、気象庁による立入規制が敷かれていましたので、一人のケガ人も出してなかったことは、今後の火口見学の安全性を維持するにあたって非常に大きいことであったと考えます。

噴火被害による復旧工事

平成 28 年の噴火は昭和 55 年の噴火から 36 年ぶりの爆発的噴火で、火口周辺施設は、退避豪以外、全損に近い被害となりました。その甚大さから、平成 29 年 2 月 7 日の噴火経過レベル引き下げ後、即時、早期復旧に向けたプロジェクトチームを立ち上げ工事を進めてきました。しかし、全体的な復旧には時間を要するため、火山ガスに対する安全管理（安全に見学できる体制）が整うまでの工事を一つの区切りとして急ぎ作業を進めて参りました。その過程を終えたのが現時点になります。舗装などの工事まで至ってない部分もありますが、至る所に見られる噴火の痕跡は、活着ている火山の証として、さらには記録に残る噴火史の一つとして皆さまの目に焼き付けていただければと思います。

阿蘇中岳の監視体制

- ・福岡管区气象台、京都大学火山研究所による 24 時間体制の監視
- ・阿蘇市直轄の現場監視 火口監視員 6 名（市職員 2 名含む）、誘導員 3 名を常時設置